



教育相談室

いでしょうか。一方で、今までの疲れや新たな悩みが出てくるのもこの時期です。ここで少し、親子の関係について考えてみましょう。

順序よく子供の心に届けましょう

子供が健全に育っていくためには、家庭のなかで安らぎ、憩い、くつろぎの体験を十分にさせてあげることが大切です。そのあと順次子供の成長にしたがって、規律や約束、義務などを教えていきます。子供の年齢が何歳であっても、乳幼児から少年、思春期の若者まで、必要ならば必要なだけ、まずは安定感や安心感を実感させることが大切です。

「根拠のない自信」を作ってあげましょう

乳幼児期には、人を信頼する感性や感覚がもともと育ちます。自分でしたいことを自分でできないときは、誰かにそれをやらせてもらうとその相手を信じる力が育つのです。それが人との関わりに喜びを感じる心を育て、基本的信頼感へとつながります。勉強やスポーツが得意でよくできるという根拠のある自信はありませぬ。無条件に全面的に受け止められる時期があれば、安心して自立できるのです。

自立には依存と反抗が必要です

親に甘えやわがままを十分に受け止めてもらうことで、自分は愛され

る価値のある子供だと確信し、安心して自立への歩みが始まります。子供は幼いときから依存(甘え)と反抗(わがまま)を繰り返しながら自立していきます。「アイデンティティ」という思春期、青年期を初めて提唱したエリク・H・エリクソンは、「人間の発達や成長には順序があつて、決して飛び級することはできない」と言っています。ある課題を果たさないままだと、あとになってそれをやり直さなければならなくなります。

言葉のやりとりが人格を作ります

日々の生活のなかで親自身が自然なよい言葉遣いをしていくことが大切です。それは家族がどのような言葉が話しながら生活しているかということが、子供の言葉遣いに大きな影響を与えるからです。言葉尻を捕らえて問題にするようなしつけでなく、人柄を育てることに心がけます。

本音で話す子供に育てるためには

子供に言っている言葉に、相手の人格を否定したり自尊心を傷つけたりしてしまう言葉、子供を見捨てる、見離す言葉や態度があります。例えば、「ルールを守りなさい」と言うのはいいですが、「ルールを守れない子はうちの子じゃない」という言い方は子供の人格やプライドを損なっています。

思春期をどのように受け止めるか

私たちは日々、様々な人と多様な関係を築き、その人間関係のなかに「自分」を実感します。乳幼児期には親をはじめとする家族、学童期や思春期には友達、成人になってからは近隣や職場の人々との関係です。

思春期の友達との関係は、他の時期に比べ、特別な意味があります。この時期には、人間一人一人がほかの人と違って個性的で特別な存在であることを意識し始めます。その意識は友達との関係を通して形作られるところが大きいのです。

思春期は理想と現実とのギャップに苦悩する時期でもあります。一種の欲求不満ややり場のない怒りの気持ちを抱えていることを承知しておきましょう。一方で、その満たされない気持ちや、努力や向上心の根拠であることも知っておいてほしいことです。親は寄り添うよりも少し遠くから見守るのが効果的です。

「子育ての空回り感」の原因を考えよう

いざ自立させなくてはと思い、親はがんばって子育てしているでしょう。しかしうまくいかず、空回りしているようだと感じることも。アドバイスしても、子供の気持ちや能力が準備できていないことがありえます。言葉かけ、タイミングを考へてみましょう。

親の思いが伝わらないのは、親のがんばっているポイントがずれていることがあります。誰かに相談したり、親子の相性を考えたりすることが改善の糸口になるでしょう。子育ての悩みを一人だけ、または親だけで抱え込まず、違う視点でとらえる機会も作りましょう。

かける声かけもいろいろ

その子に合った、より伝わりやすい声かけがあるかもしれません。親の見方を変えたりお互いに妥協したりしながら、親子で話し合い、コミ

ニケーションを深めていきましょう。それぞれの子供の個性によって、必要な量や頻度、程度、タイミングなどは違ってくるものです。「伝わらないな」と感じたときは、声かけを変換してみるのもよいかもしれません。

- ・「あなたが悪い!」↓「○○ちゃん、イヤだと思ったんじゃないかな。」
- ・「どうしてすぐ手を出すの?」↓「そういうときは、なんて言えばよかったですか?」
- ・「そんなことしたら恥ずかしいよ。」↓「中学生がそうすると、と思われることもあるよ。」
- ・「ワガママ言わないで!」↓「どうしてそう思うの?」

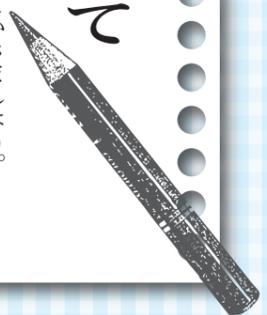
子育てとは人間関係を作ることで、他者とぶつかりながらもしっかりと人間関係を築くことが、子育て力を高めます。そして子供の内に豊かな人間性を育みます。

子育てで困っていること、心配なことなどありましたら、お気軽にご相談ください。

*嵐山町教育相談室(☎62-0823)

*参考文献
「はじまりは愛着から 人を信じ、自分を信じる子どもに」佐々木正美著(福音館書店)
「発達障害の子どもの実行機能を伸ばす本」高山恵子(講談社)
「発達障害&グレーゾーン子育てから生まれた楽々かあさんの伝わる!声かけ変換」大場美鈴著(あさ出版)

子供が社会の中で健全に育つには、子供の自立に向けて



~子ども達の未来のために~

2月号の広報により、4つの再編案をお知らせしました。これらの案をもとに審議を進めるところでしたが、2月3日及び22日に開催が予定されていた嵐山町立小中学校再編等審議会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、中止となりました。委員の皆さまから書面によりご意見をいただきましたのでその結果についてお知らせします。3月23日開催の第6回審議会では、この結果について審議しました。

賛成案集計結果 (全17人)

案1

- ☒ 七郷小を志賀小に統合
- ☒ 玉ノ岡中を菅谷中に統合
- ☒ 菅谷小は変更なし

賛成者 0人

案2

- ☒ 七郷小と志賀小を統合、玉ノ岡中に施設一体型の小中一貫校を設置
- ☒ 菅谷中に菅谷小と施設一体型の小中一貫校を設置

賛成者 0人

案3

- ☒ 小学校3校と統合し菅谷小に設置
- ☒ 中学校2校を統合し菅谷中に設置

賛成者 3人

案4

- ☒ 小学校3校、中学校2校を統合し、菅谷中に施設一体型小中一貫校を設置

賛成者 14人

※案3・4の両方に賛成された方が2人います。
 ※案1~4を選択した委員のほか、2人から以下の意見も出されました。
 ①(案1の変形)七郷小を志賀小に統合し、菅谷小は菅谷中を使用する。菅谷中を玉ノ岡中に統合する。
 ②(案3の変形)小学校3校を菅谷小に統合する。菅谷中を玉ノ岡中に統合する。

ご意見ご質問などのある方は、お近くの審議会委員、または町ホームページ内「町政のご意見箱」、役場、図書館、ふれあい交流センター、北部交流センター、B&G海洋センターに設置されている町民の声ボックスへお願いします。なお、審議会に関する資料は、町ホームページによりご覧ください。

問合せ 教育委員会事務局 ☎62-0823